

アイドル声優の 何が悪いのか？

アイドル声優マネジメント

たかみゆきひさ

小倉唯 石原夏織

伊藤美来 豊田萌絵

新世代のアイドル声優を輩出してきた声優事務所

スタイルキューブの社長が語る、
未来のための声優プロデュース&マネジメント!

アイドル声優の何が悪いのか？

アイドル声優マネジメント

たかみゆきひさ

星海社

279



SEIKAISHA
SHINSHO

はじめに

世間からアイドル声優事務所と思われる会社の社長が「アイドル声優の何が悪いのか」とはナニゴト!? という方もいらっしゃることでしょう。この「アイドル声優の何が悪いのか」にはふたつの捉え方があると思います。ひとつは「アイドル声優っていいでしょ!」というポジティブな意味、もうひとつは「アイドル声優のどういふところがマズイのか」という問題提起。実は本書ではどちらも含んでいるので両方とも正解です。となると、はて、それは一体どういふことなのか……。

現代はアイドル／タレント化した声優の時代

みなさんは声優という職業にどんなイメージを持ってますか。まずアニメや洋画のアフレコや、テレビ番組のナレーションをする人たちという声優像が、世代を問わず一般的なイメージとしてあると思います。それは間違いありません。しかし近年はそれだけではなく、アーティスト（歌手）活動やラジオ番組のパーソナリティやライブ活動など広範に及ぶ、いわゆる一般的な芸能人とそう大きく変わらないタレント業となっていることもご存じかと思います。あ、声優業も芸能だと思おうのですが、本書ではわかりやすく区別するため、声優以外の芸能人を「芸能人」、声優業界以外の芸能界を「芸能界」と表記することにします。そして、そもそも「アイドル」とは何ぞやという話ですが、もとの意味で考えると偶像とか憧れの存在あこがですから、アイドル声優という「人気声優」みたいな意味ですよね、ざっくりですが。なので、アイドルとは職業と言うよりも業態に近いと考えられます。とまあ、そん

な細かい話は置いて……。

いまや声優が雑誌の表紙を飾ったり、アニメキャラクターではなく声優自身がテレビ番組に出演することも珍しくありません。若い方は信じられないことかもしれないかもしれませんが、一時期は声優が「声」のみの裏方仕事に専念せず、露出して活動しアイドル／タレント化していくことが批判される風潮もありました（現在でもありますが）。ですが、そんな声優像はもはや過去のもので、タレント化した声優がいまではかなり台頭してきています。

声優の方々の華々しい活躍は、とくに若年層の憧れとして人気を集め、小中学生が将来になりたい人気職業として挙げられることも耳にします。アニメ作品やそのキャラクターにファンがつくことはもちろん、それに留まらずキャラクターの「中の人」である声優本人に多数のファンが生まれることもいまや当たり前となりました。これは即ち、「声優」というものが発展し、より一般化、大衆化したということあらわの顕れですから喜ばしいことではあります。ただちよつと考えてみてください。芸能界

における俳優にもアイドル性の高い人もいれば、歌ったり踊ったりする方もたくさんいらつしやいますし、アイドルや歌手がドラマなどに出演することも多々ありますよね。しかし彼らは声優ほど批判されることなく受け入れられています（まったくないとは言いません）。これは既に大衆に認知されているということです。大衆化するということは「そういう姿が当たり前のことと認識されること」でもあるのです。声優にも色々なタイプの声優がいてもよいのではないのでしょうか。アイドル声優の存在は時代が望んだことも相まった、そんな多様性の顕れだと考えます。

声優の活動休止はなぜ続くのか？

しかし声優が華々しく活躍する一方で、近年は若く才能あふれる声優たちが続々と活動休止に追い込まれていることを、みなさんはご存じでしょうか。声優ファンの方には、それなりに思い浮かぶ例があるでしょう。そのくらい声優の活動休止は

最近相次いでいます。

倒れているのは主に人気声優——声で演技をする仕事だけではなく、タレント的な活動を熱心に行っている声優たちです。

そんな事態が続くと「声優をサポートするはずの声優事務所は何をやっているんだ！」という声が当然上がります。ですが表には出てはいませんが、実は声優のマネージャーを始め、業界を支える裏方のスタッフも次々と疲弊^{ひへい}し倒れているのです。率直に言って、声優業界はいま、かなりマズい状況にあります。

それはなぜなのでしょうか？

声優業界のシステムエラー

もちろん、なかには止むに止まらない病気その他の事情によって休業する方もいます。ですが、大半の方はそうではない。これは個人の問題というより、声優業界

のシステム上の問題であると僕は考えています。

その問題は後ほど詳しくお話しますが、ごく簡単に説明しておきますと、これは業界が「声優のタレント化」に迫いついていないことが原因で、声優業界がタレントマネジメントに適応した芸能界的なシステムへ移行する途上段階であるために発生していることだと考えられます。

業界のシステム移行というものは一企業や個人の能力では一朝一夕に変えられないもので、そうした状況のなかで、真面目な子ほど思いつめ、追い詰められていきます。自分自身の能力ではどうにもならない現実について、深く考えてしまう。その不満は事務所へ向かうことになりましたが、事務所側の人材も個人個人は精一杯声優へ尽くしています。しかし問題は解決されず、疲弊して仕事から離れざるを得ない……そんな事態が声優側にも事務所側にも発生しているのが現状です。

このような話をする、声優ファンのなかには「声優は声優業だけやっていればいいんだよ。アイドルみたいなことをしてるいまの状況がおかしい」と言い出す人

がいます。しかし、声優業だけでは声優も事務所も食っていけないのが現実です。ゆえに、声優業界は声優をアイドル／タレント化する道を進んで現在に至っている経緯があります。もちろんタレント化した声優に対するニーズがあるからこそ成り立つものですから、そこも忘れてはなりません。仕事の大前提は「ニーズに応えること」、じゅよう需要と供給です。

声優という職業が人気であるがゆえに数が多すぎることに大きく起因しています。アイドル／タレント化というのは「付加価値」です。要するに付加価値がなければ、肥大した声優業界のなかで生き残れない。食っていけない。しかし、タレント化することによる負担は大きく、それをサポートするだけの体制が声優業界にはまだまだ整っていない。

本書を書くこうと思った動機は、そうした現状に一石を投じ、また、外からは見え

づらい声優業界の裏でがんばっている声優やスタッフたちのことを少しでもみなさんに知って応援していただきたいという思いからです。

新しい声優業界のために

僕は一九八〇年代に出版業界で、アニメ誌・模型誌・アイドル誌などの仕事を主に手がける編集・ライター・イラストレーターとしてキャリアをスタートし、その後、テレビや芸能界の仕事を手がけるようになりました。声優のマネジメント業務に携わるようになったのは二〇〇一年頃からで、二〇二三年現在、小倉唯・石原夏織・豊田萌絵・伊藤美来らを擁するスタイルキューブという声優事務所の代表取締役社長として働いています。いわゆる「アイドル声優」と呼ばれてきた声優のプロデューサーとマネジメントが、僕の仕事です。

ここで気をつけないといけないポイントなのですが、芸能事務所と声優事務所で

は、同じ「マネジメント」という言葉で表現される業務であっても、内容には大きな違いがあります。そのことを肌身で知っている人間として、声優とタレントの垣根が下がり様々な混乱が生まれている現状に対して、何か役に立つことができるのではないか。現場ではそんな気持ちで仕事をしていますが、そもそも声優業界の内実は世間にはあまり知られていません。

そこで本書では、声優業界の現状といまに至る流れをご紹介しますとともに、あらためて僕たちが目指すべき声優像／声優業界像を探りたいと思っております。

声優／マネージャーになりたい人へ

第1章では、「声優の活動休止はなぜ続くのか?」、声優像の移り変わりを確認しながら、その原因である声優業界の姿勢を芸能界におけるマネジメントとの違いを参照しつつ説明させていただきます。

第2章では、スタイルキューブという声優事務所がスターを生み出してきたこれまでの過程を振り返ることで、僕がそんな声優業界の在り方について考え、実行してきたことのアウトラインをご紹介します。

この二章が「これまで」のお話です。声優／声優事務所が現在地に至る過程を知っていただき、現状の問題点を共有していただけたらと思います。

以降は「これから」のお話です。問題点を認識したうえで、現在声優事務所はどのように動いているのか、さらにこの先どのような声優業界を目指せばよいのかを考えていきます。アイドル声優に憧れて声優になりたい人、またそんな声優のプロデューサーやマネジメントに携わりたい人には、業界案内書としても役立てていただけるとうれしいです。

第3章では、現在の声優／声優事務所のお仕事や、声優業界の現状、スタイルキューブの業務内容、方針をお話しさせていただきます。

第4章では、いま声優業界を目指す方はどんなモチベーションや心構えを持つべ

きか、スタイルキューブにおける新人研修の一部を例にしてご紹介させていただきます。

第5章では、スタイルキューブのタレント育成・マネジメントの事例、オーディションにおける採用基準や新しい声優像のプロデュース過程を振り返ります。

この本を手にとっていただいているような声優に興味を持ってくださる方は、ありがたいことに年々増えていきます。そんなみなさんが業界事情を共有してくださることは、きっと仕事に必死に打ち込んでいる声優や支えるスタッフたちの励みはげとなり、そして業界向上の大きな力になるはずです。本書が声優業界志望者、ならびに声優を愛するすべての人たちにとって、何がしかの知見を提供できる本になっていることを願います。

はじめに 3

現代はアイドル／タレント化した声優の時代 4

声優の活動休止はなぜ続くのか？ 6

声優業界のシステムエラー 7

新しい声優業界のために 10

声優／マネージャーになりたい人へ 11

第1章 アイドル化／タレント化した声優と業界の現在地

声優は役者業／声優業だけで食えるのか？ 21

声優業で20万円稼ぐとしたら？ 23

声優のギャランティーはランク制 25

アニメのアフレコだけで食うのは不可能！ 27

声優事務所がやっていくには？ 29

アニメだけでは事務所も経営不可能！ 31

声優業界と芸能界の差 32

声優事務所は実質エージェント契約 34

変わる声優像 40

声優事務所のリソース不足 42

未成年の声優の増加とノウハウの不足 44

しわ寄せの矛先は…… 46

第2章 スタイルキューブが考える「アイドル声優」とは 61

誰も悪くないがゆえの難問 48
空気は劇的に変えられない 50
声優業界と芸能界のハイブリッドを目指して 52

既存の業界はいかに変わるか？ 54
カウンセラーとしての声優事務所 57
架空の悪を作らない 59

前史 声優業界への第一歩 62
露出慣れしていない声優業界 64
アップフロントをパートナーに 66
アップフロントとアニメ事業 68
株式会社アップフロントスタイル設立 69
ハロプロタレントを声優へ 70
ソロでも活躍できるタレントを 71
オーディション開催へ 73
小倉唯との出逢い 74
声優育成のためのライブ開催 77
アイドルカルチャーを力に 79

個性を殺さない努力とジレンマ 80
才能にあわせたレッスンを 82
基礎レッスンを過度に重視しない 83
スターは効率的に生産できない 86
アイドルは盆栽 87
ゆいかおり誕生 89
初音ミクのモーションアクター 91
アイドル声優のモデル 93
苦戦したゆいかおりと小倉唯のソロデビュー 94
アニメ製作委員会の意義 97
芸能界のメソッドを声優界へ活かす 99

第3章 声優／声優事務所のお仕事案内 101

二〇二三年の声優Ⅱタレント 103

アイドル声優化のポイントは？ 106

声優像を振り返る 107

歌手、そしてアイドルへ 109

アイドル声優の業務 111

自主性が肝心 113

興味を持つことからスタート 114

メディア露出の是非 115

仕事と休息のバランス 117

スケジュール管理は難問 119

声優にあわせた組織編成とは？ 120

スタイルキューブの新体制 121

声優をコンテンツとして展開する 123

さらなる未来へ向けて 124

第4章 声優志望者向け新人研修！ 127

「正解」にする生き方 129

芸能界は芸能「海」である 132

声優業「海」はどんな海？ 134

個人主義のバランス 135

「役者」から「俳優」へ 137

企画の中心になれる「俳優」へ 139

第5章 新たな声優像を求めて

157

プロの自覚 140

「気づく」から「悟る」へ 143

本質を考えるテスト 144

「なぜ？」と考えない 147

台本の本質を読み解く 148

本質を見抜く訓練を 149

エンタメの本質とは？ 150

達成感の大切さ 152

価値の本質 154

オーディションの目的 159

採用のポイント 161

オーディションでは「卵黄」を見る 162

親御さんの存在 165

タレント育成としての番組展開 166

急激に売れるのは危険！ 168

コミュニケーションを密に 170

声優は大学進学すべきか？ 171

大学に行く人／行かない人へ 176

今後の声優を見守るために 178

移籍はネガティブなこと？ 179

フリー期間って何？ 180

移籍することで売れる例 183

タレントが向かうべき道とは 184

おわりに 186

第1章

アイドル化／

タレント化した声優と

業界の現在地

「はじめに」でも軽く触れましたが、あらためてみなさんに、僕がいまの声優業界の現状に対して感じている危機感を共有していただくための話をしていきましょう。ざっくりですが、要点だけつかんでいただくために問題点を極めて単純に整理すると、このようになります。

- 声優は声優業のみでは食べていけない。

- ゆえに声優はアイドル化／タレント化する道を進んだ。

(※業界や世間的なニーズに応えた変化であることは大前提)

- しかし声優業界の体制は「声優のアイドル化／タレント化」に適応できていない。

- 声優はパフォーマンス過多で疲弊している。

- 声優をフォローする事務所的人的リソースも不足している。

- 声優／声優事務所の人員ともに活動休止や休職に追い込まれている。

どうでしょう、こう見るとヤバくないですか？ 僕はいまの声優を取り巻くこの状況は、本当に「マズイ」と感じています。知り合いの業界関係者と話していても、近い認識を語られることが多いです。とはいえこれは一朝一夕に解決できる問題ではありません。そんな現状をお話ししていきましょう。

声優は役者業／声優業だけで食えるのか？

まず前提条件として、「役者業Ⅱアニメに声をあてる声優業だけでは声優は食べていけない」ということを確認しておきましょう。

アイドル化／タレント化する声優像については、声優ファンからは（ときには業界人からも）度々疑問や批判が投げかけられてきました。「声優は声優の仕事だけしてればいい」そういった意見はSNSなどでもよく見ます。アイドル化／タレント化しても、声優の本分である役者業／声優業をおろそかにしてはならないという見解

はごもつともですし、もともとアニメおたくである自分もそうであるべきと思うところはあります。

しかし、声優業のみの専業で生計を立てることは至難の業わざなのです。そんな声優の台所事情を知っていたくため、どれくらい働けば声優業のみで「食べていける」のか、簡単に計算してみます。

最初に「食べていける」というのはいったいどのくらい稼ぐことなのか、決めておきましょう。各個人の感覚で「食べていける」レベルというのは違ってくるかと思うので、ここでは世間のスタンダードとして大卒初任給を参考にしてみましょう。令和元年の大卒の初任給は、厚生労働省によると約20万円程とされています（出典：<https://www.mhlw.go.jp/foukei/itiran/roudou/chingin/kouzou/19/01.html>）。

東京都内で7〜8万のワンルームを借りてのひとり暮らしだと、20万円で生活するのは贅沢ぜいたくしなければなんとかやっていけると思いますが、そこそこカツカツな数字だと思えます。「5万円の安アパートを借りて、パンの耳いたともやし炒めいたで生活すれ

ば、もっと安く生活できるよ」という意見もあるかもしれませんが、そういう生活はいったんわきに置いておきましょう。そして忘れがちなのですが、というか一般には知られていないかも知れませんが、日本ではテレビアニメというものはほぼすべて東京都内でアフレコされています。つまり、家賃が安いからと言って地方や郊外に住むと交通費がバカにならないため、多少高くて都内を拠点にしないと色々具合が悪いのです。そんなことも鑑^{かん}みつつ、ひとまずここでは計算しやすいので「食べていける」最低レベル \parallel 20万円をわかりやすい数字と仮定して進めましょう。

声優業で20万円稼ぐとしたら？

声優はフリーランスで仕事される方もいますが、とくに新人であれば事務所に所属するのが一般的です。そして事務所に所属するということはほとんどの場合「事務所の社員として毎月の固定給がもらえる」ということではありません。声優は個

人事業主として事務所と契約し、受けた仕事からギャランティーを配分される歩合制がほとんどです。ある程度の固定給が設定され、仕事量によって報酬ほうしゅうが上乘せされるケースもありますが、ここでは完全歩合制を想定しましょう。

さて、新人声優が20万円を稼ぐには所属事務所にくら入ればよいでしょうか？

声優／声優事務所のギャランティーの配分比率は、事務所によって異なりますが声優が8割、事務所が2割というのがかつてよく言われてきたスタンダードです（最近は変わってきています）。これに対してテレビタレントなどが活躍する一般的な芸能界で芸能事務所からタレントが得る報酬の比率をご存じの方は、「え？ 声優ってそんなにもらえるの？」って驚かれることでしょう。ちなみに芸能界ではタレントの取り分は概ね4〜6割です（もっと少ないこともあります）。そういった芸能界のタレントからしたら「声優ってそんなにもらえるんだ」「いいなあ！」という感覚です。

配分だけ見ると、「声優業界って良心的だなー」って思われるかもしれませんが、ですがギャランティーの配分がタレントVV事務所であることが、本当にタレントに

とって良いことなのか……これは実は単純に比較できないことなんです。そして声優業界と芸能界のギャランティー配分比率の差は、それぞれの業界の体制の差に深く関わる部分ですので、後ほど詳しく掘り下げます。

さて、声優が8割、事務所が2割と設定して声優が月20万もらう場合、声優事務所には25万円の収入がなければいけません（税金などで引かれる部分は複雑になるのでいまは考えないようにします）。25万円に到達するには、声優はどのくらい働けばよいのでしょうか。

声優のギャランティーはランク制

声優のギャランティーには、ランク制というものが採用されています。声優として仕事を始めてから数年間は「ジュニアランク」。30分枠のテレビアニメ1話当たりのギャランティーは1万5千円です。以降は経験年数とともに自動的にランクが上

がり、最終的に「Aランク」になると1本当たりの出演料は4万5千円になります（実際はここに転用費など加わりますので、数字は変わります）。

これが、声優が声優としての仕事で得られる、一般的に定められた金額です。

この仕組みには、新人の頃、どれだけ出演やセリフが少ない役であっても最低限のギャランティーが保証されるというメリットがあり、一概に否定できるものではありません。一方で単純にランクが上がる⇨ギャラが上がるということではなく、出演料が上がってしまったことで起用される機会が減少する可能性があります。結果としてベテランになるほど仕事が減り、総収入も減ってしまう……といったことも発生しうるのです。このため、ずっと1万5千円を通す人もいます。

すぐく人気のある声優になれば、交渉によってギャランティーを決めることもできなくはありません。こうした「ノーランク」と呼ばれる声優もいますが、極めて例外的です。

さて、ランク制の功罪はここでは考えません。テレビアニメの声の出演で、25万

円のギャランティーを指すのでしょうか。

30分枠のテレビアニメのギャラは、新人で1話につき1万5千円。ということは、月に4タイトル計16話分出演しても24万円で、目標の25万には達しません。

つまり、テレビアニメだけだと、週4本のレギュラーをこなしても月収20万円には満たない。そして裏を返せば、週4本のレギュラーがある声優が所属していても、事務所の取り分は月5万円にも満たないのです。

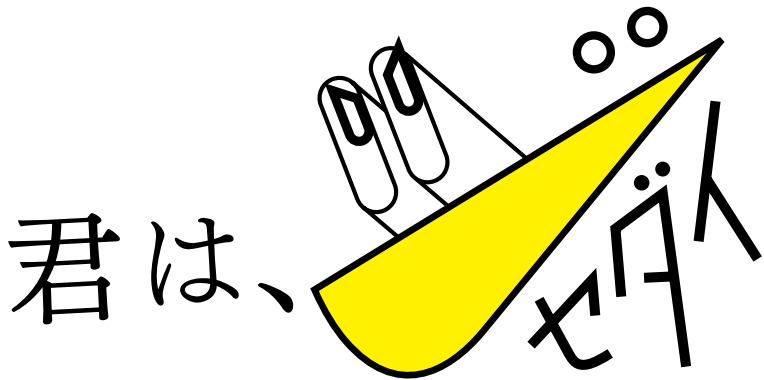
アニメのアフレコだけで食うのは不可能！

週4本のテレビアニメのレギュラー、新人声優が取れるでしょうか。ものすごくハードルが高いことですね。このように、新人がテレビアニメ出演だけで食っていくと思うても、かなり大変だということが容易にわかります。よって駆け出しの声優はアルバイトで生活費を稼ぎつつ、アニメのオーディションに挑戦し続ける

ことになります。受からなければ声優としての収入はゼロ。収入がゼロの間でも自分を磨くために本を読んだり映画を観たりワークショップに参加したりなどの出費はかかるわけです。

テレビアニメもメインどころに^{ばってき}抜擢されれば、アニメに^ふ付随したラジオ出演やキヤラソン歌唱、イベント出演などが発生するので、アフレコ以外の収入もあるし、人気が出れば主題歌を歌ったりするなんてこともある。要するにテレビアニメだけで声優として食っていくには、メインどころにキャスティングされ、タレント的な活動をするのが重要なわけです。

……ということで、テレビアニメのアフレコだけで声優として食っていくというのがいかに難しいか、ということをおわかっていただけたと思います。ナレーションだったり、ラジオやイベント出演だったり、歌だったりアフレコ以外の仕事をどんどんやっていかないと収入的には厳しいのです。



君は、

ジセダイ

何と闘うか？

<https://ji-sedai.jp>

「ジセダイ」は、20代以下の若者に向けた、**行動機会提案サイト**です。読む→考える→行動する。このサイクルを、困難な時代にあっても前向きに自分の人生を切り開いていこうとする次世代の人間に向けて提供し続けます。

メインコンテンツ
ジセダイイベント

著者に会える、同世代と話せるイベントを毎月開催中！ 行動機会提案サイトの真骨頂です！

ジセダイ総研

若手専門家による、事実に基いた、論点の明確な読み物を。「議論の始点」を供給するシンクタンク設立！

星海社新書試し読み

既刊・新刊を含む、すべての星海社新書が試し読み可能！

マーカー部分をクリックして、「ジセダイ」をチェック!!!

行動せよ!!!